

ATSUMA LOVERS

ルーラルビレッジの一角にたたずむ木工房TANAKA。木の温もりと真心こもった作品が、利用者の心をつかんでいます。小学校の教員を退職後、独学で取得した木工芸の趣味を生かして職人に転身しました。リピーターも多い田中さんの工房を訪ねました。



木工房TANAKAを経営
Vol.20 たなか たかゆき
田中 隆行さん(66歳)

木工芸品に真心こめて

熱線のペンで名前も焼き付けています。「自分の孫のように、生まれてきてくれてよかったとの思いを込めて作っています」。外観は同じに見えますが、手作りのため、すべて1点ものです。

工房のほか、NPO法人あつまもり森林むすびの会やルーラルマナビイハウスの館長も務めています。人のつながりも広がり、地域住民からも慕われています。「地震がきっかけで、地域の結束力や助け合いの心が一段と強まりました」と田中さん。相手の気持ちをくむことを大切にしています。

心安らぐ工房内は、木の香に包まれていました。月日を経て自然乾燥された木材や「何かに使えるかもしれないから」と保管されている端材が大切に並べられています。木材を見ながら、最大限、素材の良さを引き出すことに全神経を注ぎます。

「時間はかかりますが、愛情を込めた作品で、これからも笑顔を増やしたい」

昔から彫刻や木工芸が趣味でした。退職2年前の平成20年、新築した自宅の家具類は、ほとんど手作りしました。重厚な1枚板を使ったダイニングテーブルや妻のみどりさんがカントリー家具の雑誌を見て気に入った食器棚など、実物大の設計図を書いて仕上げていきます。失敗を糧に技量を磨きました。「自宅の家具などを見た近所の人から、作って欲しいと頼

まれたことなどがきっかけで、本格的に木工房を開くことになりました」。平成22年、自宅に隣接して工房を構えました。
厚真町のふるさと納税の返礼品のスプーンや受注製作の家具に加え、昨年4月からは町が新生児に贈る「お食い初めセット」も作っています。皿とおわん、スプーン、フォーク、はしの5点セットで、これまで46人分を届けました。電

あなたにとっての
愛すべき厚真を投稿してください



フェイスブック
@atsumatownhokkaido



インスタグラム
atsumalovers

ハッシュタグ#atsumaloversをつけてフェイスブックまたはインスタグラムに投稿してください。

ATSUMA LOVERS